

ゼミナール発表会

プログラム



2025年度ゼミナール発表会

日時:10月26日(日)13:00～ 場所:駿河台キャンパス リバティタワー 13～15階

		政治	国際文化	経済	
		①13:00 ～ 13:45	②13:50 ～ 14:35	③14:40 ～ 15:25	④15:30 ～ 16:15
13 階	1133	重田 園江 〔現代思想〕	川嶋 周一 〔国際関係史〕	宮本 雅也 〔政治学原論〕	牛山 久仁彦 〔地方自治〕
	1134	加藤 彰彦 〔比較社会学〕	鍾 家新 〔社会学〕	井田 正道 〔計量政治学〕	西村 弥 〔行政学〕
	1135	小西 徳應 〔日本政治史〕	水戸部 由枝 〔西洋政治史〕	伊藤 剛 〔国際政治学〕	
14 階	1144		高峰 修 〔スポーツ文化研究〕	前田 更子 〔ヨーロッパ文化研究〕	ヨーク, ジェームズ 〔遊戯文化論〕
	1145	奥山 雅之 〔地域産業論〕		鎌田 健司 〔人口学〕	大高 研道 〔協同組合学〕
	1146	大森 正之 〔環境経済学〕	廣松 悟 〔経済地理学・地域開発論〕	関根 篤史 〔統計学〕	柴田 有祐 〔経済政策〕
15 階	1153	小野島 真 〔財政政策〕	八木 尚志 〔理論経済学〕	高橋 聡 〔経済原論〕	加藤 久和 〔社会保障論・公共経済学〕
	1154	末永 啓一郎 〔開発経済学・経済発展論〕	藤永 修一 〔国際経済政策〕	星野 泉 〔財政学〕	赤津 正彦 〔経済史〕
	1155	武田 巧 〔応用マクロ・ミクロ経済学〕	奥山 誠 〔経済思想〕	齋藤 雅己 〔経済政策〕	森下 正 〔中小企業論〕

★料金無料、閲覧自由です。
★事前予約の必要はございませんので、お気軽にお越しください。

総合案内 リバティタワー4F 政治経済学部事務室 tel 03-3296-4172

【発表タイトル】

『YOUは何しに日本へ?～日本における外国人～』

【発表内容】

まず日本に滞在する外国人の法的地位を明確にした上で、労働市場における彼らの役割と課題、外国人による土地所有、そして教育現場や地域社会における多文化共生の取り組みに焦点を当て、その現状と課題を明らかにしていきます。

【テーマ設定理由】

日本国内で、外国人の姿を目にする機会が格段に増えています。少子高齢化が進み、国内人口が減少の一途を辿る一方で、彼らの存在はニュースや報道の中だけでなく、私たちの日常生活の中でもはや特別なものではなくなっています。経済活動の担い手として、あるいは国際社会との接点として、外国人の存在は日本社会のあり方を大きく変えつつあるため、このテーマを設定しました。

【発表への意気込み】

皆さんが外国人をめぐる日本社会の現状について理解を深める契機となり、様々な視点から扱う諸課題を、より身近なものとして考えられるような発表にしたいと思います！

【発表の見どころ】

日本における外国人の「法的地位」「労働」「土地所有」と、「多文化共生」の4つの側面からデータを用いて分かりやすく説明し、現状と課題を明らかにしていきます！

【フリースペース】

今年の8月に山中湖で
ゼミ合宿を行いました！



インスタフォローお待ちしております♡

【発表タイトル】

「まち」を立て直す in KYUSYU
～私たちの考える地域社会の在り方～

【発表内容】

都市圏の私たちが想像しにくいであろう地場に根差した地方団体の取り組みの数々。復興班・教育班・街づくり班の三つに分かれて、九州圏内（福岡、熊本、宮崎）に点在する様々な団体に対面での取材を行った。若者の目線から地域社会の課題を構造化し、解決の糸口を探る。

【テーマ設定理由】

ゼミ生に九州出身者や九州にルーツがある人が多いことをきっかけに、それぞれの関心分野を九州というフィールドにて実体験を通して研究することに意義を見出したから。

【発表への意気込み】

普段は心地よい雰囲気のゼミナールですが、それぞれが興味ある分野に関してはとことん調べ、とことん考えるようなメリハリが私たちの持ち味です！
加藤ゼミひいては比較社会学の学問としての面白さを伝えることができるような発表を心掛けます！！

【発表の見どころ】

調査から提案までの一気通貫での活動報告。文献による事前調査から FW 後の報告討論まで、ゼミ生同士で議論を重ねて参りました。その成果をご覧いただければ幸いです。

【フリースペース】

各班のフィールドワークの様子です！



【発表タイトル】

「日本における原発全廃の是非」

【発表内容】

原子力発電（原発）について、世の中には様々な議論があります。安全性や放射性廃棄物の問題から「脱原発」が主張されますが、現実には、電力の安定供給を実現する電源でもあります。その理由と原発の是非について、さまざまな角度から問います。

【テーマ設定理由】

本テーマは 2025 年度春学期小西徳應ゼミナールにおけるディベート大会の議題です。原発の是非は国によっても立場が異なる難しいテーマであり、国際化が進む中、それぞれの立場の主張を正しく、深く理解する必要があると考えたため、設定しました。

【発表への意気込み】

私たちは、3 週間のディベート期間を通して本テーマについて学び、ゼミ生全員で理解を深めました。本発表では、その成果を分かりやすくお伝えします。この機会に、私たちと一緒に日本のエネルギーのあるべき姿について、深く考えてみませんか？

【発表の見どころ】

実際にディベート大会で争点となり、激しい論争が繰り広げられた部分を中心に、賛成・反対の双方の立場から論じます。最後には私たちなりの結論もお伝えしますので、皆さんも意見や関心を持っていただくきっかけになれば幸いです！

【フリースペース】

私たち小西ゼミは現在、4 年生 20 名（男子 15 名、女子 5 名）、3 年生 13 名（男子 6 名、女子 7 名）で活動しています。31 年の歴史を誇る、縦横のつながりが強いゼミです。日々の活動内容は、小西ゼミ公式 Instagram でも見ることができます。皆様にお会いできるのを楽しみにしています！



@KONISHISEMI_MEIJI

【発表タイトル】

地域産業とプレイスブランディング：「まち」づくりから「まち」づかいへ

【発表内容】

『多摩プロジェクト』より

1. 夜の公園からはじまる、地域の新しいまちづかい ～イマーシブナイト ZOO～

『南越前町プロジェクト』より

2. 南越前町同郷会/南越前の風、東京へ。

『栃木プロジェクト』より

3. 球場に行きたくなる理由発見プロジェクト

『学生インターン協働型課題解決ワークショップ』より

4. 北区花火会 有料席 PR 戦略 ～移り変わる花火大会のかたち～

【テーマ設定理由】

これまでの活動を振り返り、プロジェクトのさらなる発展の機会とするため

【発表への意気込み】

まちへの想いや感謝の気持ちを胸に、心を込めて発表させていただきます！

【発表の見どころ】

実際にコンテストで使用した発表資料とともに、本番さながらのプレゼンテーションをお届けします。プロジェクトの魅力や意義をより体感していただける機会となっています！

【フリースペース】

いつも明るく元気な9期です！

本日はまちの課題に向き合う真剣な姿をご覧ください！！



【発表タイトル】

環境経済学による3つの研究の成果

【発表内容】

3 チームがそれぞれ「地方自治体と再生可能エネルギー発電事業」、「都市部における地中熱ヒートポンプ利用」、「ブルーカーボン事業とブルーカーボンクレジット」をテーマに研究成果のプレゼンテーションを行います。

【テーマ設定理由】

ゼミ生が自ら興味がある題材を選び、各員が研究計画書を作成しました。その後、実現可能性や各員の興味関心などについて議論し、上記の3テーマを設定しました。

【発表への意気込み】

私たちは昨年度の3月から活動を開始し、テーマ設定から調査・分析・論文執筆・発表準備に至るまで全ての研究活動に主体的に取り組んでいます。今年度12月に東京ビッグサイトで行われる環境系展示会「エコプロダクツ展」での発表は私たちの研究の集大成となる予定であり、現在、当日に向けて一生懸命準備しているところです。今回の発表が「エコプロダクツ展」に向けた良い経験となるように精一杯頑張ります。

【発表の見どころ】

企業の専門家や行政の関係者への聞き取り調査を行い、最新のデータを集めた上で、分析・政策提言を行います。インターネット上のデータだけではなく、現場を見て、現場で話を伺うことで獲得した情報に基づく説得力ある発表をぜひご期待ください。

【フリースペース】

環境と経済。一般には対立・背反構造で語られることの多い2つの概念ですが、それは本当なののでしょうか。実は、そうではないのです。むしろ、環境、もっといってしまえば生態系（エコロジー）を経済学の枠組みに取り入れること、あるいは、経済学を生態系の枠組みに取り入れることによって、私たちはより豊かな社会を獲得出来るのではないかな。そんな問いかけから、私たちの研究は始まります。

興味のある方はぜひ発表を見に来てください！



ご来場、お待ちしております！



【発表タイトル】

- ①『ケニアにおける電力アクセスと包括的貧困削減～因果効果の検証と政策的示唆～』
- ②『ケニアモンバサ港およびその周辺地域における物流効率化戦略』

【発表内容】

- ①本発表では、ケニアの農村部における電力アクセス率の改善が貧困削減に与える影響について、実証データを用いた因果分析を行います。ケニアのエネルギー政策や現地の課題に焦点を当て、どのような政策が電力アクセスの向上に寄与するのかを明らかにします。
- ②本発表では、東アフリカの主要港であるモンバサ港を中心に、物流の効率化に向けた課題と改善策を考えます。港での貨物の待ち時間や滞留、通関の遅れなどをデータから分析し、鉄道 (SGR) や内陸港 (ICD) など周辺地域との連携も含めた「港から内陸まで」の改善策を提案します。現地調査や企業・機関へのヒアリングをもとに、実現可能な政策や仕組みを示します。

【テーマ設定理由】

- ①貧困問題に関心があり、ケニアの農村部において電化が進んでいない地域に、どのようにして電力アクセスを可能にできるのかに強い興味を持ったためです。
- ②②港湾の効率化は、地域の経済発展や貿易の円滑化に直結する重要なテーマです。特にケニアでは、モンバサ港の混雑や通関の遅れが経済活動に影響しており、その改善策をデータと現場の両面から検討することに関心を抱いたためです。

【発表への意気込み】

- ①今回の発表では、電力アクセス率改善に向けた施策や政策を、企業へのインタビューや現地での農村部でのアンケート調査をもとに、わかりやすく発表できるよう頑張ります。
- ②アフリカのケニアにあるモンバサ港という少し遠い場所の話になりますが、できるだけ身近に感じてもらえるように、分かりやすく説明します。港の中で荷物がどう動いているのか、どこで時間がかかっているのかを、図や写真を使って丁寧にお伝えします。

【発表の見どころ】

- ①ケニアの農村部の現状を、フィールドワークを通じて得た実態からお伝えします。
- ②普段は公表されていない港湾の運用データや現地フィールドワークで収集した独自データを用いる点です。さらに、普段は立ち入れない港湾施設でのフィールドワークの様子も写真とともに紹介します。



武田巧ゼミ 研究テーマ 応用マクロ・ミクロ経済学

【発表タイトル】

「日銀は利子率を引き上げ、金融正常化を加速すべきか？」

【発表内容】

1. ゼミ紹介
2. 模擬ディベート
3. 質疑応答

【テーマ設定理由】

日本銀行は黒田東彦前日銀総裁のもと、異次元の量的・質的金融緩和政策を行い、0%付近の低金利を維持しました。緩和政策によって経済を刺激しようとして行ったことですが、それでも経済は上向かず、日本は失われた30年ともいわれるような経済停滞を経験しました。

現在の日本経済は黒田前総裁の時代とは異なっていますが、植田総裁は金利を引き上げるべきなのか、それとも経済が上向き始めている今はまだ待つべきなのか、皆さんも考えてみてください！

【発表への意気込み】

ディベートを通して、私たちのゼミ活動の魅力を存分にお伝えしたいと思います！ディベートに興味がある方も、一度も見たことが無いという方も、ぜひお越しください！

【発表の見どころ】

ゼミで実際に行っているものと同じ流れでディベートを行います。今回のテーマは、金利の引き上げに賛成と金利の引き上げに反対の勝率がほぼ同じでした。白熱したディベートを直接見ることができます！

【フリースペース】

武田ゼミのテーマ「グローバル化が進む中で、日本経済をいかに元気にするか」

勉強する内容は、移民・財政・金融・環境等多岐に渡るため、日本経済全体について学ぶことができます。

<ディベートの様子>



<夏合宿の様子>



- [#経済全体を学びたい人](#)
- [#発表力を鍛えたい人](#)
- [#英語力を鍛えたい人](#)
- [#武田巧先生のこと好きな人](#)

<Instagram>



<X>



【発表タイトル】

家族が子供の学歴形成にどう影響を与えるか

【発表内容】

はじめに
経済格差
兄弟姉妹の影響
家庭内環境
中学時代の環境
おわりに

【テーマ設定理由】

まず、教育格差に興味を持ち、そしてその教育格差が家庭内の影響を強く受けるのではないかと考えたため。

【発表への意気込み】

有意義な時間になるように頑張ります。

【発表の見どころ】

インタビューを頑張ったので、インタビュー結果に注目して見てください。

【フリースペース】



@SHOUKASHIN2025

【発表タイトル】

戦時性暴力を教育するには：日本とドイツを例に考える

【発表内容】

日本とドイツにおける戦時下の性暴力の実態、長く隠され歴史化されてこなかった政治・社会的な理由について考えます。さらに、この性暴力に対する両国の歴史教育での扱いを比較し、これまで「なかったこと」にされてきた戦時性暴力を、日本の歴史教育にどのように組み込み、未来に継承していくかについて考察します。

【テーマ設定理由】

ゼミで戦時性暴力の深刻さや背景の複雑さを学ぶ中で、LGBTQ やジェンダー平等の議論とあわせて、日本の制度や教育がドイツなどの欧米に比べて閉鎖的であると感じました。多角的な思考能力を養うための教養とは何か。この問いを考える上で戦時性暴力は重要な事例になると思いテーマにしました。

【発表への意気込み】

戦後 80 年を迎える今、戦争も戦時性暴力も絶えることはありません。本発表では日本とドイツという加害国であり敗戦国でもある国に着目し、歴史教育で戦時性暴力の取り上げ方を比較し、扱うことの意義を考えます。性暴力を教育の視点から考えるという独自性のある内容ですので、皆さんに理解してもらえよう頑張ります！

【発表の見どころ】

戦時性暴力は「過去の出来事」ではなく「現代にもつながる課題」です。性暴力被害の記憶をどのように社会が受け止めるべきかを考えるきっかけになればと思います。また、戦時性暴力がいかに繊細なテーマであるのかを踏まえ、未来に向けた教育のあり方を試行錯誤しながら考察しました。是非ご注目ください！

【フリースペース】



水戸部ゼミは火曜 2・3 限で活動しています！

西洋政治史をベースにジェンダーやセクシュアリティ、様々な政治・社会問題について学んでいます。

水戸部ゼミに興味を持ってくれたらうれしいです！



Instagram でゼミの発信もしているのでぜひ！

【発表タイトル】

小諸に学ぶ ― 地方の実情と地方創生

【発表内容】

9月に実施した長野県小諸市での合宿を通じて得られた知見について、4班に分けて発表します。政治班はPark-PFI事業、経済班・地域行政班は六次産業、危機管理班は災害対策をテーマとしています。

【テーマ設定理由】

小諸市は豊かな自然環境や歴史的な文化資源を有すると同時に、少子高齢化や人口減少といった地方都市共通の課題を抱えています。そのため、現地に赴いて調査を行うことで、地域の魅力と課題を直接体感し、地方創生に向けた可能性を多角的に捉えることができると考え、本テーマを設定しました。

【発表への意気込み】

「地方にはまだまだ多くの可能性が秘められている」ということを皆さんに実感していただけるようにお伝えしたいと考えています。小諸市をきっかけに、地方の持つ価値や未来のあり方について、一緒に考えるきっかけになれば幸いです。本発表をご覧になった方々に、地方都市に関する新たな知識と視点を提供できるよう鋭意努力します。

【発表の見どころ】

各ゼミ生の個性が出ており、ゼミでの研究について理解を深められる発表となっています。研究テーマに少しでも興味を持っている方、心よりお待ちしております。

【フリースペース】



10月26日13時55分～ リバティタワー1146教室

【発表タイトル】

産業連関表を用いた NAFTA 3 カ国における産業構造の分析

【発表内容】

産業連関表を利用し、アメリカ・カナダ・メキシコの計 3 地域における産業構造を視覚的に分析します。

【テーマ設定理由】

近年、政治的な影響もあり活発な構造の変化を見せている北アメリカ地域の経済を視覚的な表を用いて分析することは、今後の世界経済を捉えるうえで非常に重要かつ有意義なことであると考えたため。

【発表への意気込み】

私たちの発表を通じて少しでもこのテーマに興味を持っていただければ嬉しいです。

【発表の見どころ】

産業連関表やスカイラインチャートを用いることで分かりやすくなった複雑な産業構造の分析に注目していただければ幸いです。

【フリースペース】

【発表タイトル】

日本はなぜ開戦に踏み切ったのか？ ～ 秋丸機関「幻の報告書」を手がかりに ～

【発表内容】

現代を生きるわたしたちからすると、日米開戦は「非合理の極致」としか見えないかもしれません。しかし実は、当時の指導者たちは日米の「国力の差」を十分すぎるぐらいわかっていました。それなのに、彼らはなぜ、「無謀」としか思えない開戦に踏み切ったのでしょうか？本発表では、現代史の最大の問いの 1 つであるこの問題について考えます。

【テーマ設定理由】

終戦から 80 年を迎えたいま、日米開戦について「経済思想」の視点で捉え直そうという動機が生まれたからです。

【発表への意気込み】

わかりやすい発表を目指してゼミで試行錯誤しながら準備を進めてきました。すでに日米開戦について一定の知識がある人はもちろん、日米開戦についてあまり知らない人も大歓迎です。ぜひ、聞きに来てください！

【発表の見どころ】

「無謀」とも見える開戦は正確な情報を知らなかったのではなく、知っていたうえで決断されました。その決断に至る過程とはどのようなものだったのか、ぜひ注目して頂きたいです！

【フリースペース】

日光東照宮での集合写真



合宿での勉強会の様子

今年のゼミ合宿の写真です！

井田正道ゼミ 研究テーマ 計量政治学

【発表タイトル】

2024年衆議院選挙の計量分析

【発表内容】

昨年10月に行われた衆議院選挙について総括をした上で、小選挙区選挙・比例代表選挙それぞれの分析を行います。

【テーマ設定理由】

昨年の衆議院選挙では、自民・公明連立政権の与党が衆議院で過半数割れし、日本の政治に大きな変化をもたらした選挙となりました。そのため、2021年衆議院選挙と比較することで、多角的な分析ができると考え、このテーマを選びました。

【発表への意気込み】

「計量政治学」と聞くと難しそうな印象を持たれるかと思いますが、選挙に関する事前知識のない方にもグラフや表を用いてわかりやすくお伝えできるような発表にしたいと考えています。

【発表の見どころ】

総括では、躍進を遂げた国民民主党がどのような公約を掲げていたのかを詳しく知ることができます。また、小選挙区の分析では主に復活当選制度と死票について、比例代表の分析ではExcelを用いた選挙結果についてそれぞれ検証しています。

政治現象を数値データとして研究することの面白さをお届けしたいです！

【フリースペース】

私たちは毎週水曜日の4・5限に活動しており、選挙結果をもとにした計量分析を行っています！

※2026年度のゼミ生募集は行わないことになりました。



【発表タイトル】

経済安全保障

【発表内容】

国際政治学の理論に基づき、特に米中経済の関係性、安全保障について焦点を絞って考察します。

【テーマ設定理由】

2025 年 1 月 20 日、第二次トランプ政権がアメリカで誕生しました。各国政府、世界市場がトランプ大統領の一挙手一投足に左右される状況の中、我々日本国がアメリカのパートナーとしてどのような関係を築いていくかは、今後の国際社会を日本が生きていく中で非常に重要な課題になり得ます。

【発表への意気込み】

今年で第 24 期を迎える歴史ある G0 ゼミ。国際政治学を学ぶ G0 ゼミは毎回の授業で議論を重ね、十大学合同セミナーと呼ばれる約 2.5 万字に及ぶ国際政治に関する論文執筆にも挑戦しました。多様なバックグラウンドを持つ個性豊かなメンバーが協力し、今回の発表に臨みます。グローバル化が急速に進む今、国際政治を学ぶことなくして世界情勢を理解することはできないのではないのでしょうか。国際系に少しでも興味のある方はぜひご参加ください！

【発表の見どころ】

教授の専門分野でもある米中の安全保障戦略について分析しています。第二次トランプ政権の誕生を契機に、再び世界は大きく動き出すでしょう。政経学部生にとって、この学部にいる意味を再認識できる機会となるのではないのでしょうか。G0 ゼミメンバーの人柄や熱意も存分に伝わる内容となっておりますので、ぜひ最後までお付き合いください！

【フリースペース】

＼皆さんとお会いできることを楽しみにしています！／

公式インスタグラム



前田更子 ゼミ 研究テーマ ヨーロッパ文化研究

【発表タイトル】

カウンターカルチャーとは何か？～ジャズとスケートボードにおけるアイデンティティの獲得と抵抗の記憶～

【発表内容】

本発表ではアメリカを代表する文化であるジャズやスケートボードを事例とし、自己表現やメッセージの発信の場として機能する文化の中に秘められた既存の規範や社会構造に対するカウンターカルチャー性について考察する。

【テーマ設定理由】

ヨーロッパの歴史や文化を研究する中で「誰が歴史や文化を生み出すのか？」という問いに直面し、人々がより能動的に生み出した文化としてカウンターカルチャーに着目した。

【発表への意気込み】

多様性やアイデンティティについて考えてもらい日々のあたりまえを問い直すきっかけになっていただけたら幸いです。

【発表の見どころ】

現在では当たり前になったジャズやスケートボードなどの文化の背景を知ることができます。また実際のジャズミュージックを聴いていただけるなど知覚的にも楽しめる内容となっております。

【フリースペース】

前田ゼミは、ヨーロッパ文化研究について研究をしています。

和やかな雰囲気楽しく活動を行っています。

興味がある方はぜひ発表をご覧ください！

Instagram：@maedazemi_2025

↓ 普段のゼミの様子

↓ 今年の夏合宿の様子



【発表タイトル】

A 班：通勤から考える東京集中問題

B 班：婚姻行動の規定要因分析－JGSS データを用いたロジスティック回帰分析－

C 班：新宿への通勤時間帯が沿線地域の世帯構成に与える影響の分析

【発表内容】

A 班：東京の通勤者数と就業率から東京集中問題を分析する

B 班：20～49 歳の人々において婚姻しているか否かを規定する要因を明らかにする

C 班：「都心距離」と「通勤時間」が主導する居住地選択を可視化し、分析する

【テーマ設定理由】

A 班：東京圏への人口集中問題への関心があるため

B 班：晩婚化・未婚化が進行する現代日本において、婚姻に至る要因を多角的に分析し、今後の政策立案に資する知見を得るため

C 班：世帯構成に与える影響について、交通利便性、特に通勤時間帯別の世帯構成の偏りを定量的に示すことで、都市計画や地域社会の整備に向けた基礎情報を提供するため

【発表への意気込み】

各班が半年間の研究成果を披露します！我々にゼミが取り組んできたこと、ひいては人口学というものを身近に感じてもらえたら幸いです！

【発表の見どころ】

細かなデータや統計分析を用いた研究内容になっています。

【フリースペース】

我々鎌田ゼミは 3 年生 21 名、4 年生 14 名で活動しています。普段のゼミでは主に、外書研究、統計実習、班研究を行っています。また夏合宿やゼミナール発表、シンポジウムへの参加など、普段の授業以外にも様々なことを行っています。男女、学科関係なくゼミ生みんなが主体的に楽しく活動しています。ぜひ発表に足を運んでいただき、私たちのゼミを体感してってください！お待ちしております！



集合写真



ゼミ合宿

【発表タイトル】

- (1 班) 関税率の変動が輸入・全要素生産性・GDP へ及ぼす波及効果に関する検証
(2 班) 金融政策と株価の相互作用に関する検証

【発表内容】

- (1 班) 日本および米国を対象に、実質輸入・全要素生産性・実質 GDP の各変化率と関税率の関係を、VAR モデルを用いて検証する。
(2 班) 日本のデータを用いて、金融政策と株価の相互作用を、構造 VAR モデルを用いて検証する。

【テーマ設定理由】

- (1 班) 米国の関税政策の転換を契機に、関税が経済に及ぼす影響に関心を抱いた。先行研究を読む中で、関税の効果は国や時期、制度設計によって異なることがわかった。そこで本研究では、最新のデータでモデルを再構築し、近年の通商環境を反映した推定を行い、その結果を検証する。
(2 班) 日経株価の急騰や金利に大きな転換が見られた近頃において、日本の金融政策と株価の関係性に関心を抱いた。先行研究を読む中で、米国では金融政策と株価に強い相互依存があることがわかった。そこで本研究では、政策金利の代替として日本のシャドウレートを用いてモデルを再構築し、結果を検証した。

【発表への意気込み】

我々もまだ学習途上ですので、研究においては単純さを徹底しています。今回の発表においても、難しい内容もわかりやすくお伝えできるよう頑張ります。

【発表の見どころ】

どちらの班も、経済政策がマクロ経済にどのように波及するかを可視化するよう努めています。グラフを用いて、影響の向き、大きさ、持続期間を直感的にお伝えします。

【フリースペース】

山中湖で行われた今年度のゼミ合宿の写真です。
本ゼミナールの Instagram では、活動報告やゼミ試に関する情報を発信していく予定ですので、ぜひご覧ください！！



【発表タイトル】

「介護制度と持続可能性-介護分野に人手を呼び込むには？-」「日本の働き方は自由と言えるか？-柔軟性のある制度へ向けた提言-」

日曜放談「高橋ゼミの問題点-忌憚ない意見をお伝えします！-」

【発表内容】

共同論文の執筆課程報告

日曜放談：参加者全員で自由に好きなことを語る

【テーマ設定理由】

ゼミでの普段の活動の成果をお見せし、ゼミで何が求められるかについて知ってもらうため。

日曜放談：時間をかけて人と語り合う場は大学にありそうで意外にないから。

【発表への意気込み】

皆さんがリラックスして参加できるよう、和やかな雰囲気ですゼミ発表会に臨みたいです！

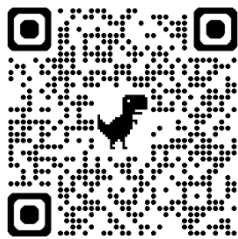
【発表の見どころ】

特別な演出等は用意していませんが、ゼミの活動をよく知る機会になると思います。関心のある方はぜひ参加してみてください。

【フリースペース】



↑ 共同論文編集の様子



↑ Note

【発表タイトル】

温泉立町・草津町の現状と展望

【発表内容】

草津町の現状及び、支出と収入から見る財政

【テーマ設定理由】

本研究では、日本有数の温泉地である草津町を対象に、観光地特有の行政運営が財政に与える影響を検討し、今後の地方財政の方向性について考察することを目的とする。

【発表への意気込み】

草津町に関する研究を通して、町の現状と課題について多角的に学ぶことができた。発表では、その成果を分かりやすく伝えとともに、地方財政を考える上での視点を共有できるよう、精一杯取り組む。

【発表の見どころ】

本発表の見どころは、事前調査に加えて草津町の総務課長・企画創造課長・観光課長から直接お話を伺い、質疑応答を重ねた点である。これにより、統計資料や文献だけでは見えてこない町の現状や課題、政策の背景について理解を深めることができた。また役場の担当者から直接得た状況をもとに考察を発展させることで、より実態に即した発表内容となっている。

【フリースペース】

夏合宿では大学院生 2 名・四年生 14 名・三年生 15 名が参加し、草津町にて現地調査を行った。



齋藤雅己 ゼミ 研究テーマ 経済政策

【発表タイトル】

- ① 「京都市のオーバーツーリズムによる交通問題とその政策対応」
- ② 「大学をゲートウェイとする日本の新たな外国人材戦略」
- ③ 「トークン化金融商品の法整備とオンチェーン金融の推進策」

【発表内容】

- ① 京都市における観光の概況、これまでの施策と評価、今後取り組むべき施策
- ② 現在の日本における外国人労働力の実態と長期的労働力確保のための施策の検討
- ③ 金融商品のトークン化によってブロックチェーン上での取引を可能にするための法整備、オンチェーン金融を広く普及させる政策提言

【テーマ設定理由】

- ① 近年のインバウンド増加によって、日本の観光地でも「オーバーツーリズム」が懸念されるようになってきました。そこで、本研究では、とくに観光客の多い京都市において、観光客と住民双方に影響を及ぼす「交通問題」に焦点を当てました。その理由は、観光資源が市街地に集中し、観光客による混雑が住民の生活の質に直結する都市構造を持つ点、既に進められている交通問題対策の検討を通じてその有効性や課題を明らかにすることができる点、などから分析の価値が高いと考えたためです。
- ② 現在の日本では少子高齢化とともに人口減少が進んでおり、深刻化している労働力不足を外国人労働力によって補う必要があると考えられます。この問題について、外国人労働者に関する研究はこれまでに多く行われてきましたが、「留学生」に焦点を当てて高度人材を長期的に確保するという観点からの研究は先例が少なく、新たな知見を得ることができるのではないかと理由からこのテーマを選びました。
- ③ 共同研究チームの全員が IT 関連分野に興味があり、近年発展が著しいフィンテック領域に関心が集まりました。その中でも、ブロックチェーン技術の応用と実装が進み、トークン化金融商品の開発が進められていることから、この分野の法的課題を明らかにして、日本においてもオンチェーン金融を推進していく必要があると考えて研究テーマとしました。

【発表への意気込み】 各チームとも、現在の日本において重要度が高いと考えられるテーマを選んで研究を進めてきました！2年生にもわかりやすく伝え、面白いと思ってもらえるように頑張ります！

【発表の見どころ】 幅広いテーマについて研究することができるのが齋藤ゼミ（経済政策）の特徴です。3つのテーマに対して、それぞれのチームがどのような分析を行って、課題解決のための政策提言を行うのか、ご注目ください！

【フリースペース】

齋藤ゼミでは、毎年12月に2・3・4年生合同で新歓合宿を行っています！現実経済の問題を分析し、政策提言を行う「経済政策」に興味がある方、お待ちしております！



【発表タイトル】

外国人問題から見えてきた多文化共生を阻害する「縦割り行政」

【発表内容】

グローバル化が加速する現代、多様な目的で外国人の来日が急増している。私たちは現代日本が直面する外国人問題を、観光客による「オーバーツーリズム」と、在留資格である「特定技能の受け入れ」という二つの主要因に焦点を当てて考察。これら課題の根本的な解決には「多文化共生の推進」が不可欠であると結論づけた。しかし、共生社会の実現に向けた取り組みを進める上で、国や地方自治体における縦割り行政という構造的な問題が阻害要因として顕著に露呈しているのが現状である。そこで、行政組織が抱えるこの課題を浮き彫りにし、真に機能する共生社会を実現するために必要な施策について検討・提言する。

【テーマ設定理由】

今年7月の参院選では保守系新興政党が躍進。外国人の受け入れに対し、日本国民が敏感な反応を示すようになった現状を浮き彫りにし「外国人問題」が重要な論点として争われていたことをきっかけに本テーマを決定した。しかし、少子高齢化が進む日本において、外国人労働者は深刻な人手不足を補うためには不可欠であり、インバウンドによる経済効果も無視できない。こうした状況から、国内の外国人増加は避けられないが、その受け入れ体制や共生への課題も山積している。春学期のゼミ活動で得た地方自治の知見をもとに、地域に根差した多文化共生社会をいかにして実現していくべきか、具体的に考察する。

【発表への意気込み】

当初、オーバーツーリズムと外国人労働者というそれぞれのテーマ統合に時間を要しましたが、二つの視点から議論を深めたことで、多文化共生における中央・地方府の連携不足という共通課題が浮かび上がりました。ゼミ生一人一人がこだわりを持ち、幾度もの議論を重ねて作り上げた発表です。ぜひご傾聴ください！

【発表の見どころ】

皆さんにとっても身近である「観光」と「労働」の2つの視点から外国人問題について考えました。その中で見えてきた課題が「縦割り行政」でした。今後、さらに外国人の受け入れが進むと予想される日本社会では、どのような体制の構築が必要なのか。そして、共生社会を実現するために今進めるべきことは何なのか。今後の共生社会のあり方を考える一助となれば幸いです。

【フリースペース】

牛山ゼミは個性を尊重しつつも、メリハリのある活動を実践しています。自治体への深い関心を持つゼミ生同士が、多岐にわたるテーマについて様々な意見を交わすことで、一つの事象を多角的に捉える力が身につきます。「やるときはやる」という協働の姿勢で、調査・研究に取り組む私たちの活動の成果をぜひお確かめください！

【発表タイトル】

埼玉県川島町との共同研究

～ビジネスホテルの開発を契機とした地域活性化～

【発表内容】

西村ゼミでは埼玉県川島町と連携し、地域活性化に向けた観光資源の視察調査と町役場・商工会・地域商社へのインタビュー調査を行いました。発表では両調査で得られた知見をもとに、ゼミ生が考えた地域活性化に向けた施策について発表していきます！

【テーマ設定理由】

埼玉県川島町との共同研究も今年で6年目に突入しました。令和9年の秋にビジネスホテル(ルートイン)がオープンする予定であり、これを契機に、地域の消費促進や観光振興に力を入れていきたいと考え、テーマを設定しました。

【発表への意気込み】

西村ゼミの共同研究に興味を持っていただけるように、精一杯頑張ります！

【発表の見どころ】

本日の発表は、町役場や商工会などの方々の前で実際に報告したものを、一部修正したものとになっています。春学期の西村ゼミの研究成果を、町について全く知らない方々にも分かりやすく説明していきますので、興味がある方は是非、気軽にご参加ください！

【フリースペース】



@WATARU_1109

普段の活動やゼミ試情報
についてはこちらから！！

【発表タイトル】

生活困窮者支援に取り組む労働者協同組合
—ワーカーズコープちばが社会連帯活動に取り組む意義—

【発表内容】

調査対象とした労働者協同組合が、労働者（組合員）や利用者（生活困窮者）にとってどのような存在であるのかを明らかにするとともに、同組合が社会連帯活動に取り組む意味・意義について検討する。本研究では、その現状と課題を整理したうえで、今後の展望や可能性について考察する。

I テーマ設定背景・目的

II 労働者協同組合・ワーカーズコープちばについて

III 事例分析①：千葉市生活自立・仕事相談センター稲毛について

IV 事例分析②：フードバンクちばについて

V ワーカーズコープちばが社会連帯活動に取り組む意味・意義

VI 調査のまとめ

【テーマ設定理由】

研究テーマを設定するにあたり、私たちゼミ生は、「生活困窮者が増加している」という社会状況への危機感と将来への不安から出発した。私たちは、国から委託を受けて生活困窮者支援を行う協同組合が、国の支援が及ばない部分までを補う社会連帯活動に着目した。その活動の意味や意義を明確にすることを目的として、本テーマを設定した。

【発表への意気込み】

ヒアリング調査を通じて、ゼミ生が直接触れ、そして感じた事実や思いをベースに発表で表現します。ゼミ生一人ひとりが本気で取り組み、そしてゼミ生同士協力しながら行う部分にも注目して聞いていただけると嬉しいです！

【発表の見どころ】

ゼミの授業で培った話す力（発表力）、質問対応力

【フリースペース】

私たち大高研道ゼミは、大高研道先生のもと、男子6名・女子6名の計12名で活動しています。そんな大高ゼミの特徴としては、全員がフラットな関係を築き、ゼミ生主体で対話を重ねながら活動を進めている点です。今回の研究活動においても、多くのことをゼミ生全員が積極的に考え、判断し、議論を重ねながらまとめあげてきました。

ゼミナール発表に向けた準備の中では、意見が対立することもありましたが、各メンバーの意見を尊重しながら、全員で対話し、共に試行錯誤してきました。そのため、この発表はゼミ生それぞれの思いが詰まったものになりました。

ぜひ、大高ゼミのゼミナール発表にお越しいただけると嬉しいです！



【発表タイトル】

なぜ賃金が上がらないのか？

【発表内容】

7月の参議院選挙で「手取りを増やす」をキャッチコピーにした国民民主党が議席を伸ばしたことから、多くの有権者にとって賃金が増えていかないことが強い関心事となっていることが窺われます。長年にわたって他の先進諸国と比べて日本の賃金は停滞し続けていますが、その原因は何なのか、特になぜ人手不足と言われる中で賃金が上昇しないのかについて検討します。

【テーマ設定理由】

海外に行くと、とても物価が高く感じられますが、その理由として、現在の円安の他に日本の賃金が長い間停滞していることが挙げられます。バブル崩壊以降、2000年代の初めまでは景気が低迷し、失業率が高い状態が続いていましたが、リーマン・ショック後にピークを迎えた失業率は徐々に低下し、近年では少子高齢化と相俟って人手不足が問題となっています。経済理論的には人手不足は賃金上昇につながるはずですが、それにもかかわらず、賃金が増え続けていることに疑問を抱き、このテーマを選びました。

【発表への意気込み】

ゼミ活動を通じて得た知識や経験を使って一生懸命作りました。明るく仲のいいゼミです。興味のある方はぜひ見に来てください！

【発表の見どころ】

発表を通して、柴田ゼミの魅力をたくさんお伝えしたいと思います！身近な賃金の問題について、分かりやすく説明し、来場していただいた皆様が納得できる発表にしたいと思います。

【フリースペース】

加藤久和ゼミ 研究テーマ 社会保障論・公共経済学

【発表タイトル】

トラックドライバーの過労死等ゼロに向けて

【発表内容】

本研究は、トラックドライバーの労働環境特有のリスク要因と過労死の発生メカニズムを多角的に解明し、ドライバーの安全を守る実効性の高い予防策と、持続可能な物流体制の構築に向けた政策提言の確かな根拠を提供することを目指している。

分析においては、先行研究の知見を基盤とし、規制が強化された後も過労死が多発するのはなぜか、根本的な原因を多角的に分析する。

【テーマ設定理由】

日本の物流を支えるトラックドライバーは、長時間労働と人手不足により極めて過酷な環境にあり、脳・心臓疾患の労災請求件数が最も多い業種の一つである。この過重労働は、業界の持続可能性を脅かしている。働き方改革関連法の改正後も、ドライバーの時間外労働上限は一般労働者より年 240 時間多い 960 時間と特例が設定されており、この規制下での過労死リスクの増大が懸念される。

従来の研究では、このような労働環境を過労死に結びつける分析が不足しているため本稿においてその実態を調査することを目的とする。

【発表への意気込み】

本研究が対象とするトラックドライバーの過労死要因は、物流の持続可能性と人命に関わる極めて重要な課題である。過労死というナイフな問題を包含しているからこそデータ収集の難しさに直面することもある。

しかし、私たちはこの分析の難しさを未解明な真実に挑んでいる証と捉える。過労死メカニズムを解明し、単なる学術的知見ではなく、実務に活かせる具体的な防止策を提言するという強い決意を持って、粘り強く研究を完遂する。

【発表の見どころ】

加藤久和ゼミでは、分析ソフト Gretl を用いたデータ分析に力を入れています。

本稿でも重回帰分析を用いてトラックドライバーの過労死等に影響を与える要素について分析しました。

データ集めから分析結果の考察まで時間をかけて準備しましたので、注目していただけると嬉しいです。

【フリースペース】



データ分析や公共経済学、政策提言に興味関心のある方、ぜひお待ちしております！

分析など真面目な雰囲気もありますが、お散歩会や留学生との交流会などもありメリハリがあって楽しいゼミです！

この写真はお散歩会の様子です！

【発表タイトル】

「三ガク都」松本発展の歴史的背景―産業・教育・住環境・文化―

【発表内容】

自然と都市機能が調和した住みやすい街として人気を集め移住者が増えているとされる長野県松本市。「三ガク都（岳都・学都・楽都）」とも呼ばれる松本はいかにして魅力のある街となったのか？その要因・背景を、「自然を生かした産業発展」、「優れた教育環境」、「良好な住環境」、「豊かな文化」、という四つの側面から考察する。

【テーマ設定理由】

移住者が増えているとされる松本がこれまでどのように発展してきたのかに関心を持ったため。

【発表への意気込み】

本やネットで情報を集めるだけでなく夏休み中に実際に松本に行って実踏調査までして発表を作成しました！

【発表の見どころ】

実踏調査で撮った写真。あといかにテンポよく発表できるか。

【フリースペース】

ぜひ見に来てください(´;ω;`)



【発表タイトル】

中小企業や地域産業に関する卒論の中間報告

【発表内容】

日本の中小企業が直面している課題に対する解決策の提示
(パワーポイントを用いた発表)

【テーマ設定理由】

ゼミナールの研究テーマである中小企業の実態やそれを取り巻く環境についての研究を知ってほしいと考えたため。

【発表への意気込み】

私たちのゼミナールで行っている中小企業に関する研究や学習内容について、理解しやすい形でお伝えできるように頑張ります！

【発表の見どころ】

中小企業の現在の状況や課題、これからの持続的発展についてなどがわかります。
4年生の発表では、製造業について深掘していきます。

【フリースペース】

私たちのゼミナールでは中小企業へのヒアリング調査やさまざまな地域への視察調査などを行っており、企業の実態、現場の現実を直に体験できます。さらに、学問的にも中小企業を学ぶことにより、中小企業や中小企業を取り巻く経済状況について、多面的に見ることができるようになります！

